

これは 1876 年に完成した歴史的な「銀の馬車道」（現在は銀の馬車道として知られている生野鉱山寮馬車道）の一部である。この道は兵庫県北部の山で採掘された銀や他の金属を姫路にある飾磨津港まで運ぶために建設された。その設計者であるフランス人の技師レオン・シスレー（1847－1978）は、当時ヨーロッパで広く用いられていたマカダム様式[採石を用いる道路舗装様式]の道路建設を採用した。その種の日本の最初のものとして、銀の馬車道は明治時代(1867－1912)の産業化の例である。

ここでは、初めの頃の道路の一部がおおよそ 100 メートルの距離であるが、桜の木で縁取られた江戸時代の池の周りを巡っている。道路の両側を支えるために使われた大きな石垣はその縁に沿って見ることができる。ここがすべての建設の層が手を触れられないまま元の状態で保存されている道路の唯一の部分である。